

2019 年度 小委員会活動成果報告

(2020 年 1 月 10 日作成)

小委員会名	木造建築構法小委員会	主 査 名：榑藤 智之 就任年月：2016 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会 (設計計画・構法計画運営委員会)	委員長名：広田 直行 主 査 名：角田 誠
設 置 期 間	2018 年 4 月 ～ 2020 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>・ 木造建築構法に関する構法計画上の研究課題を推進する。</p> <p>1) プレカット機械や中大規模木造等に関する研究会を開催し、木造建築構法関連分野の広がり、近年の進展に関する研究に関する情報を収集する。</p> <p>2) 民家や伝統技術に関する研究会を開催し、民家や伝統技術の研究成果に関する討論を行う。</p> <p>3) 内外の研究者による木造建築構法関連の研究成果発表会を行い、最新の研究成果を共有するとともに、今後の研究の方向性を見出す。</p> <p>2018 年度：在来木造、近年の在来木造中大規模木造に関する調査、民家研究の情報共有、若手の関連研究成果発表会</p> <p>2019 年度：在来木造関連技術・中大規模木造建築構法に関して木材関連研究者との研究会、民家研究の発表の場の検討、若手の関連研究成果発表会</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：榑藤智之 (東京大学大学院工学系研究科)、幹事：山畑信博 (東北芸術工科大学デザイン工学部)、金子晋也 (札幌市立大学デザイン学部)、委員：大橋好光 (東京都市大学工学部)、金善旭 (八戸高専) 後藤治 (工学院大学建築学部)、小林久高 (島根大学大学院総合理工学研究科)、杉本健一 (森林総合研究所構造利用研究領域)、樋口貴彦 (飯田市歴史研究所)、福濱嘉宏 (岡山県立大学デザイン学部)、藤田香織 (東京大学大学院工学系研究科)、堀江亨 (日本大学生物資源科学部)、源愛日児 (武蔵野美術大学造形学部)、吉田倬郎 (工学院大学)、渡邊史郎 (国土技術政策総合研究所)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>比較木造構法 WG：日本および英米を中心とした西洋諸国を対象とし、各国の木造建築構法がどのように発達し、また他国からの影響により変質・展開していったかを横断的に明らかにすることを目的としている。木造構法を比較文化としてとらえることにより、我が国の現在の木造軸組構法住宅がその母体としている伝統的な構法と、工学的な拠り所としている外来の洋風軸組構造との関係を探り、俯瞰的や視野から日本と欧米諸国の木造構法の系譜を明確にする。</p>	
2019 年度予算	135,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：無

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	日本建築士会連合会会誌「建築士」2019 年 10 号に特集「各地の民家・小屋構法研究者」として、本委員会のネットワークを活用し若手の木造民家構法研究者 5 名の活動紹介を掲載した。
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	香川大学・釜床美也子氏による「南予の農山村・農漁村の民家を中心とした四国の特徴的な木造構法」の研究発表を公開で行った。参加者数 10 名
大会研究集会	

<p>対外的意見表明・パブリックコメント等</p>	
<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>1. 過去に行ったオーガナイズドセッション等のネットワークを活かし、民家構法の若手研究者による特集記事を外部媒体で発表した。</p> <p>2. 現代の木造関連技術について、先進的な木材活用事例に関する講演を行い、課題や今後の展開について活発に議論した。</p> <p>3. 民家・在来技術・伝統構法については四国地方の民家研究に関する研究成果の講演を公開で行った。</p> <p>歴史的構法、現代的な構法それぞれについて活動を行い、研究成果の対外的な公開も行えた。</p>
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<p>他委員会との連携不足</p>